10月号

ステパノだより

No.247

今月の聖句

『あなたがたは自分で心を狭くしています。』

コリントの信徒への手紙二　第6章12節

◎10月の予定

1日(木)　校内研修会
3日(土)　県陸上総体（等々力競技場）
5日(月)　教務委員会
9日(金)　ステパノスポーツ大会
12日(月)　ステパノスポーツ大会予備日
14日(水)～16日（金）教科テスト（中）
15日(木)　教務委員会
～16日(金)　入学願書受付（小）
20日(火)　教職員協議会
21日(水)・22日(木)　内部進学者願書受付
23日(金)　自宅学習（小）
～24日(土)　小学校入学考査①
28日(水)～30(金)　修学旅行（小・中）

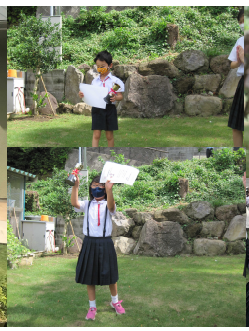
◎11月の予定

5日(木)　聖書教室
10日(火)～12日(木)　体験入学（転入）②
13日(金)・14日(土)　内部進学者考査

九月十八日（金）　創立記念礼拝を海の見えるホールでお献げし、中三と小六が参列しました。他の児童生徒は各教室でオンラインの形をとりました。

永年勤続表彰として長谷川誠子教諭（勤続三十五年）、上戸基夫教諭（勤続十五年）が表彰されました。

礼拝後は、ステパノまつりに代わり企画された「ステパノ国際映画祭」の作品を各クラスで鑑賞しました。

芝生での表彰式


◎今月の行事から

☆スポーツ大会　10月9日（金）

今年度は通常の運動会を行うことができませんが、大切にしてきた体育的行事ですので、縮小した形ですが実施できることとなりました。最善の注意を払いながら、できる内容を体育の授業でやってきました。半日ですが、児童・生徒がグラウンドに一同に会し、一体感を感じられる時間になることを願っています。

新型コロナウイルス感染予防のため、来賓や保護者の方のご観覧はご遠慮いただくこととなりました。ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。

☆修学旅行　28日（水）～30日（金）

小学校は、新幹線を利用し、奈良・京都方面へ二泊三日で出かけます。現地では貸し切りバスを利用し、宿は昨年と同じ「たきがわ旅館」です。歴史を学ぶ上で重要な土地・建造物を訪ねます。

中学校は、新幹線を利用し、金沢方面へ二泊三日で出かけます。糸魚川のフォッサマグナミュージアムでの地層学習や、金沢城・兼六園の見学など、学びの多い修学旅行になりそうです。

感染予防に努めた旅行になると思いますが、それでも実施できる喜びをかみしめて、良い思い出を作って欲しいです。

聖ステパノ学園を創るために生まれた人

（創立記念礼拝の話）

学園長　小　川　正　夫

皆さんにはお誕生日がありますね、学校にも誕生日があります。そのお話をしましょう。

今から一二〇年前の九月十九日、とても元気な一人の赤ちゃんが生まれました。女の子でした。名前は岩崎美喜さんと言います。

岩崎さんの家はとても大金持ちで、銀行や会社をいくつも持っていて、親戚の人たちをみんな集めると、日本の国を動かすリーダーたち、つまり、政治の世界で、内閣が組織できるといわれるぐらいの実力がありました。

美喜さんは小学校の頃から勉強家で、日本語は勿論、英語もフランス語もよく勉強し、よくできました。お習字も得意でした。

大きくなって澤田廉三さんという外交官と結婚して澤田美喜さんになりました。

外交官澤田廉三さんは、英語は勿論、フランス語が大得意で、美しいフランス語を話すことで有名で、国を代表する人達の通訳や、天皇陛下の通訳としても選ばれていました。

外交官夫人になった澤田美喜さんは世界の国々で生活し、社交界の花形でした。

大磯に住んでいた元外交官、総理大臣にもなった吉田茂さんとも大の仲良しでした。

フランスで生活していたころに、ジョセフィン・ベイカーさんと親しくなり、そのころ生活が苦しく貧しさの中で暮らしている子どもたちに、いつも笑顔で嬉しそうに贈り物を届ける姿を見ていて、とても驚きました。

イギリスで生活していたころ訪ねた、ドクター・バナードス・ホームの働きをみても、大きく心を動かされました。それは、エリザベス・サンダース・ホームと聖ステパノ学園の働きのお手本になるような仕事でした。

澤田美喜さんは、日本にもいつかこのような仕事が必要になると考えました。三十一歳の秋のころでしたが、日本にバナードス・ホームを創りたいと強く決心しています。

世界中が巻き込まれるような大きな戦争が終わり、日本は負けて、家や食べ物がなく、親とも離れ、一人では生きていけない子ども達が大勢いました。澤田美喜さんが四十八才の時、その子たちのお母さん代わりになってあげようと決心してエリザベス・サンダース・ホームの基礎を創りました。

やがて、子ども達が小学校に上がるころ、神様の声を感じた美喜さんは、聖ステパノ学園という「お祈りのある立派な学校を創る」決心をしました。その時五十三才でした。

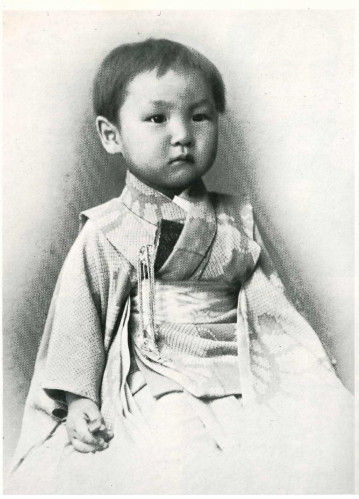
今皆さんの周りには三十一才ぐらいの先生、四十八才ぐらいの先生、五十三才ぐらいの先生方がいますが、美喜さんはこのぐらいの年の頃に学校を創られたのだなと感心していた先生がいました。私もそう思います。

さて皆さんは、あまり気にしてはいないと思いますが、息をしていますね、息をしているということは、生きているということと同じです。普段あまり気にしていなくても、心臓がとくとく動いていることも知っています。命があるということですね。そして、命って生きている時間と同じで、生きている時間が無くなったら、命がなくなるわけです。

ですから時間は大切に使わなければなりません。時間を大切に使うということは、命を大切に使うと同じことです。高学年の皆さんは、命を使うと書いて使命と読むことを知っていますが、私達は誰でも、生きているとき、神様から戴いた時間、つまり命を人の為に使うことが大切なのです。

神様は、澤田美喜さんに、五十三才になったら、聖ステパノ学園を創立し頑張りなさいと言って、力を貸してくださったようです。

今もその心は聖ステパノ学園で働くすべての先生方に受け継がれているのです。



澤田美喜　2歳の頃

写真引用元
Elizabeth Anne Hemphill *THE LEAST OF THESE -Miki Sawada and Her Children-*
(New York and Tokyo: WEATHERHILL, 1980)

人間にできないこと

事務長　中林　三平

新型コロナウイルスに対するワクチンや治療薬はまだ出来ていません。同種のコロナウイルスによるMERSやSARSに対するワクチンもまだ実用化されていません。それでも、今回の感染規模の大きさに後押しされて時間が経てば開発に成功するでしょう。人間の努力による進歩は限りがないように見えます。

二十世紀の前半に、人間の科学的な能力が限られたものであることを示す、三つの大きな原理・定理が証明されました。まず、第一はハイゼンベルクの不確定性原理で、これは量子の世界では、位置と運動量を同時に確定することが不可能であることを示しました。私たちが生きているマクロの世界には関係しませんが、物事を極限まで突き詰めることができない世界があることを示しました。

二つめは、ゲーデルの不完全性定理です。これは数学の世界の話ですが、簡単にいうと「数学的に証明できない事柄が存在する」ことを証明したということになるでしょう。数学では、証明しなくても「正しい」と前提する「公理」を認めますが、どのような公理系を前提としても、矛盾が発生したり、結論がでなかったりすることがあるという定理です。この好例はギリシャ時代から知られており、「全てのクレタ人は嘘つきである、とクレタ人が言った」という文章からはクレタ人は嘘つきかどうかを判断できません。すこし私たちの世界に近づいてきましたね。

三つめは、アローの不可能性定理と呼ばれるものです。これは、二人以上の人が三つ以上の選択肢の中から物事を決める時に、「公正な決め方」としては当たり前に思える四つの条件を全て同時に満たせる決定方法は存在しないというものです。例えば、多数決という決定方法は良く使われますが、三つのチーム（ｘｙｚ）があるとして、それぞれの人数が49％、49％、２％だったとして、選択肢ＡＢＣのうち多数が良いと思うものを選ぶとします。大きなｘとｙは常に対立しているとして、まずＡＢについて多数決を取ると、小さいｚが賛成した方が51％の得票となります。他のどの選択肢の組み合わせでもｚの賛成するものが選ばれ、ｚの好き嫌いが常に全体の方針を決定することになります。これは、公正であるための「独裁者がいない」という条件に違反します。この定理は、多数決だけではなく「どのような決定方法も」公平性の四条件を同時に満たすことができないことを明らかにしました。かなり衝撃的な定理ですね。

アローの論文は非常に大きな議論を世界中に巻き起こしましたが、数学的に非常に厳密な証明であり、間違いはありませんでした。民主主義国家では、どうすればこの不可能性から逃れられるのかについて、経済学者たちが頭を悩ませ、様々な論文が発表されました。多くはアローの四条件をどうすれば緩和できるのかというのをテーマにしていました。ただ、全く違うアプローチをとった人たちもいます。アローの議論は基本的には個々人は自分の幸福（効用）を最大化するように行動するという仮説に基づいています。これに異議を唱えたのが、ボールディングの「贈与の経済学」やアマーティア・センの「倫理」を経済学に持ち込むという試みです。

これらは、自分の幸福だけではなく他の人の幸福も考えるという立場に立ったら、社会全体の幸福はどのように変わるのかということについての研究です。数学的な厳密さには相対的に欠けますし、明快な結論が出るようなものではありません。でも、私はこのアプローチの方が好きです。既に述べたように、人間の理性は限られたものです。その制約の中で、厳密な答えだけを求めていくのは適切ではないでしょう。「他者を思いやる気持ち」を考慮に入れると問題は一挙に複雑となり単純な最適化では解けません。最適化できない場合には一般的に社会全体としての効率性は落ちる可能性が高くなります。それでも、その場合にこそ人間らしい社会が形成されるのだろうと考えています。

聖ステパノ学園は効率を追い求める社会ではありません。そこで教育を受ける子どもたちには、効率化された社会に適応することではなく、隣人を思いやり、自分を活かして生きることを教育の目的としているのです。

一年生と共に学ぶ

教諭　草山　広子

九月十八日の創立記念礼拝の後に、ステパノ国際映画祭がありました。この映画祭の取り組みは、一年生の心と心を一気に結びつけてくれました。私は、小学校一年生の担任をしています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、六月に入学礼拝式が行われました。

二学期になって、一年生は、映画祭に向けて、どんな動画ができるのか一学期を振り返りながら考えました。四月、五月が休校だったこともあり、みんなドキドキとワクワクの入り交じった気持ちだったのではないでしょうか。そのドキドキを少しずつ和らげてくれたのが、ステパノの森の植物や小さな生き物たちでした。「ほら、これを見てみて。」「こっち来て、見つけたよ。」と一つずつ共通の感動が増えていきました。入学当初はおとなしかった子が、とても話し好きだったり、実はお茶目だったり、甘えん坊だったりと、今ではどんどん自分らしさを出し始めています。

こうした子どもたちの様子にピッタリ合った詩を見つけました。工藤直子さんのフォトポエム絵本「よいしょ」の中にあった詩「よいしょがいっぱい」でした。絵本の中のフォトは、生き物たちが「いろんなよいしょ」をしながら頑張っている姿です。私は、この「よいしょ」という言葉の中に、「いつもがんばっているね。安心して学校生活を楽しんで行こうよ」という気持ちを重ね合わせました。この詩を動画の中に入れたいと思いました。

さっそく、チームに分かれて音読の練習をしました。それぞれが個性を出しながら、ひとつの作品に仕上げていきます。ひとりひとりの頑張りが全体の頑張りに繋がります。チームごとに最後のポーズが決まりました。みんな楽しみながら最大限に力を発揮できました。こうして、一年生の動画は、詩の音読と今までの日常生活を織り交ぜた作品となって、出来上がりました。

違った環境の中から集まった十四人の一年生。次から次へと新しいことの連続で、戸惑うこともたくさんあったと思います。それでも毎日登校することで昨日よりも今日と、一つずつ乗り越えてきました。一学期の終わる頃には、気持ちのぶつかり合いが出てきました。これが大事なのだと思います。子どもたちにとっての社会です。いけなかったら、知らんぷりしないで「ごめんなさい」が言える。すぐに「いいよ」が返ってこないときだってある。人にされて嫌だったら、自分はしない。理不尽な態度や言葉には、はっきり「いやだ」と言える。心が通じたら、また仲良くなる。こうして子どもたちは小さいながら、短い休み時間に、いろいろな経験をしてきました。授業中、頑張って発表ができたら、みんなで拍手をする。誰かが病気でお休みしたら、「明日は学校に来ることができますように」とお祈りしようと言う子がいる。「給食おいしいね。」という子がいれば、ほかの誰かも別の日に「おいしいね。」と言う。その言葉を聞いて「食べてみようかな」と挑戦する子がいる。

そうした子どもたちの姿を、丸ごと受け止めて、一緒に考えながら見守り、応援してくださっている保護者の方々に感謝です。

夏の日差しを浴びて、芝生のガーデンを見下ろすようにヒマワリの花が咲きました。まるで、「こんにちは」と挨拶しているようです。秋風が吹く頃、花が散って種ができました。生活科の授業で、種を取って観察するために、中村先生がヒマワリを根元から一本ずつ切って子どもたちに渡しました。持ってみたら長くて重くて、しっかり持たないとよろけてしまいます。茎は細かい毛がチクチクして持ちづらいです。見ているのと、実際に触ってみるのとでは、違います。日々の生活もやってみなければ、わからないことだらけです。学習でも同じことが言えます。自分からやってみようと思って取り組むと、達成感があって次もやってみたいという気持ちになります。そんな毎日の積み重ねが大切だと思っています。コロナウイルスと闘う困難な時代でも、季節が着実に進むように、刻々と成長していく一年生。一緒に学べることがとても嬉しいです。

元気になるために

教諭　赤田　祐章

昨年末から、そして今も猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの学校行事実施が困難になっています。地域の方と交流することを目的としたステパノまつりは、早々に実施中止が決まりました。それに代わる新しい行事を実施しました。

〈係として〉

「何ができるのだろうか？」

この言葉の後、長い沈黙がありました。七月初め、教員のステパノまつり係、第一回話し合いの始まりでした。行事中止を決定するだけなら簡単です。しかしソーシャルディスタンスを確保しながら児童・生徒が内容を考え計画を立て、協力して活動ができることを考えました。全教員が身につけたスキルを活かし、児童・生徒と動画制作にチャレンジしてみようと提案しました。その後、中学校三年生に主旨を伝え、行事名とスローガンを考えてもらいました。

行事名『Stephen 国際映画祭』

スローガン

『一緒にならずに一緒にやろう！全力Stephen 国際映画祭』

『さけろ三密！気持ちは密で！Stephen 国際映画祭』

担任をしている小学校二年生の様子をお伝えします。

〈企画〉

何をしたいのかと聞いたところ、

「冒険がしたい」

「逃走中をやりたい」

詳しく話を聞くと、何かを探したいという要望が多かったので、『宝探し』に決定しました。

〈撮影〉

実際の活動開始は二学期が始まってからでした。撮影は順調にいきません。台本を作る時間はありません。即興でセリフを覚え、すぐ撮影。元気よく声を出していた子たちは

「あれ？もう喋っていいの？」

「…なんだっけ？」

練習で出ていた声が小さくなってしまい、再生すると聞こえなかったりしました。

動きのある箇所では、一度画面から見切れたのに、戻ってきてしまい、クラス全員で大笑いしました。

〈編集〉

コマ撮りした映像をつなぎ合わせていきます。撮影が終わらず押してしまったために、編集時間が少なくなりました。何日にもわたる撮影のため、気付くと服装が違っていることも。タイトルを『宝物をさがせ！』から、『間違い探し』にしようかと真剣に悩みました。焦りと戦いながら、映画祭前日にやっと出来上がり、クラスでの試写会にこぎつけました。

〈ステパノ国際映画祭当日〉

二年生は一年生～四年生の作品を観賞しました。特に一年生の作品を観ている時、心の声がたくさん出てきました。

飼育小屋近くで、ヘチマの花を観察している場面では

「蚊がたくさん来るから気をつけて！」

体育でグラウンドを走っていると

「がんばれ！がんばれ！」

他には

「校長室いいな～」

「一年生に戻りたいな～」

まるで応援上映をしている映画館のように、思い思いの言葉を掛けていました。

〈表彰式〉

強風の中、十二時過ぎに行われました。実行委員会が全企画に表彰状とトロフィーを用意してくれました。その行動力に感謝です。

〈終わりに〉

出来上がった動画をお互いに鑑賞して、元気になることができたと感じます。先生達は、子どもたちの「やってみたい」を実現するためにどうすれば良いか考え、夢と現実の調整を行いました。

できあがった動画で、みんなの笑顔を見ることが、私にとってなによりのご褒美でした。

【小学校】今年初めての行事「Stephen 国際映画祭」を全校で行いました。小学校はそれぞれのクラスで撮影した映像を、お互い鑑賞しました。初めての取り組み、子ども達はどのように感じたのでしょうか？（日記より抜粋）

金曜日に、ステパノえいがさいをやりました。

５年生、３年生、４年生のを見て、５年生はトウソウチュウをやっていて、すごくドキドキしたけど、けっきょくしゅくだいでした。（注：逃げ切れた時のご褒美は、宿題無しでした。）また見たいなって思いました。

３年生は、勉強になることを教えてくれました。うちゅうの話が勉強になりました。楽しかったです。

（小４　ＳＳ）

今日、待ちに待った『Stephen　国際映画祭』がありました。

最初にこれを聞いた時は「自分たちの作る映画、どんな作品になるのかな」とか「他のクラスの映画、楽しみだな」とワクワクしていたのですが、最後の方は「間に合うかな？」で頭がいっぱいでした。実をいうと、台本にあって、動画にならなかったのも２、３コありました。ですが、案外きれいにまとめていただいたので「これはこれで良し」でした。結果オーライです。

そして今日の映画祭は、２年生、４年生、６年生、そして中学生（おもしろ動画①）を鑑賞しました。みんなどこか「クスッ」と笑えて、おもしろい動画になっていました。そして、米原先生を中心にして撮っていたパプリカの児童・生徒の大合唱。すごくはく力があって、感動しました。まだ見ていない学年が４つあるので、これから学校で見るのが楽しみです。

それと、自分のクラスが作った動画は、見た人が「おもしろい！」と思ってくれたら、うれしいです。

そして何よりも、楽しかったです！

（小５　ＩＨ）

今日は学校で国際映画祭をしました。みんなが作った映画を観て面白かったです。

一番面白かったのは、ぼくたちの逃走中です。なんでこれが一番いいかというと、僕は逃走中が好きだからです。

ぼくは、逃走中で逃走者をやりました。ぼくは、初めて逃走者をやって嬉しかったです。去年はハンター役だったので、逃走者の役が出来て嬉しかったです。

有名人が逃走者をやっているので、逃走中が好きです。

逃走者をやってみて、ハンターから逃げられて楽しかったです。久しぶりに逃走中ができてよかったです。

（小５　ＨＫ）

今日は、創立記念礼拝の後に、ステパノ国際映画祭が開さいされました。

まず『全校生徒によるパプリカ』を見ました。そして、小学１年生、５年生、中学生の動画を見ました。１年生は「よいしょがいっぱい」、５年生は「逃走中」、中学生は「おもしろ動画」でした。

僕が一番面白いと思ったのは、中学生の「おもしろ動画」です。見てみたら、とても面白すぎて、笑ってしまいました。そして「逃走中」は、最後の場面がとても面白かったです。１年生は、一日の様子が動画になっていて、とてもすごかったと思っています。

来年は、またステパノまつりができたらいいなぁと思っています。とても楽しかったです。

（小６　ＫＲ）

今日は、ステパノ国際映画祭の５年生と１年生と、おもしろ動画①と②とおどってみた、うたってみた、演奏してみたを観ました。

とにかく、印象に残っているのは、みんなの作品が、とてもクオリティーが高かったことです。５年の逃走中とか、おもしろ動画②、ステパノスイッチなど、本当にクオリティが高かったです。オレ的には、ステパノスイッチがおもしろかったです。絵もうまかったし、ユーチューブに出せんじゃない⁉と思いました。もう、みんな、すごかったです。

（６年も負けてないぞー！）

（小６　ＫＳ）

【中学校】二学期になって、ステパノっ子たちの大好きな「行事」をようやく行うことができました。初めての企画「stephen　国際映画祭」に向けて取り組み作成した各グループの動画を、創立記念礼拝の後に鑑賞しました。当日の日記から。

今日は創立記念礼拝をしました。その後に、ステパノ国際映画祭が始まりました。音楽系の他のグループは見たことがあるけど、音楽系以外の他のグループのは見たことがなかったので、楽しみでした。どのグループもおもしろくて、大爆笑しました。自分のは恥ずかしくて、あまり見られませんでした。

今年はコロナ対策で、保護者は来られなくて、ステパノ国際映画祭になりましたが、でも、けっこう盛り上がって楽しかったです。小学生の動画も楽しみです。（中１　ＭＭ）

今日は、ステパノ国際映画祭でした。私は実行委員でした。中学校に入って初めて実行委員をやるので、みんなに楽しい日になってもらいたいと思って、頑張りました。他のグループの人たちの動画を見ていなかったので、とても楽しみでした。

私が好きな動画はやはり「パプリカ」です。全校児童生徒と先生みんなが協力して、短い間だったのに完成できたことは、とてもうれしいです。いろいろな人が、いろいろな楽器を演奏してくれて、とてもうれしかったです。リコーダーや歌以外のもあって、より良いものになった気がします。個性的だなと思ったのが、口笛を吹いてくれた小５のＹくんでした。リコーダーの人たちも、テンポが速くて、大変そうでした…

もう一度見たいと思う動画もありました。おもしろ系動画と、音楽系動画です。あと、小学生のは見られなかったので、小学生の動画も早く見たいです。

今年のステパノ国際映画祭は、去年のステパノまつりとは違う形でのやり方でしたが、とても楽しい日になりました。撮影など大変だったと思いますが、頑張れば頑張るほど、いい動画が完成するので、頑張って良かったと思いました。（中２　ＴＭ）

今日は、創立記念礼拝と国際映画祭があり、動画を見ました。いろいろなグループが頑張っているのを見て、すごいなと思いました。

一番面白かったのは、おもしろ動画です。なぜかというと、内容がすごくおもしろくて、協力していることもあり、ステパノみんながまとまってできない分がんばっていた、と思いました。

離れていても行事を終えることができて良かったなと思います。楽しく見られて良かったです。（中２　ＭＫ）

今日、創立記念礼拝のあと、児童・生徒が作った動画を見る「ステパノ国際映画祭」がありました。約２週間で作った動画が、数分で終わってしまったので、名残惜しい気持ちです。また、いつも見ているYouTubeやテレビ番組を作っている側の大変さがわかりました。

自分のグループは、面白い動画を作るということで進めました。が、自分たちが面白いだけで、傍から見たら悪ふざけになりそうだったり、考えてきた内容が、コロナウィルスの関係でできない、などの問題があり、何をするのか決めるのも大変でした。最終的にコマ撮り動画になりました。しかし、どういうコマ撮り動画にするかで、また時間がかかってしまい、本番までに取り終えられるか怪しくなりましたが、何とか、考えたものを全て撮り終え、良いものができました。

何せ、今年初めての行事だったので、難しかったです。

「今年の反省を来年にいかしたい」と、今年は書けないので、卒業が近づいていることを、改めて実感しました。また、ステパノの行事は楽しいな～と、心から思いました。（中３　ＡＳ）

全校児童生徒の「パプリカ」の演奏動画より

今号は、昨年度のＳＡ活動を振り返り、代表を務められた三名の方にお話を伺いました。

＊　＊　＊

―どのような運営活動をされましたか？

誰でも気軽に役員の活動ができるように、合理化に取り組みました。ＳＡ会費の徴収方法については、現金から銀行振込への変更をお願いし、「ＳＡの集い」開催のご案内も、プリント配布からメール配信のみにしました。

また、皆さんにとって、わかり易く居心地のよいＳＡとなるよう心掛けました。集い議事録などの配布物では、ユニバーサルデザイン・フォント（※参照）の読み易い文字を使いました。また、学校と小学校保護者で話し合い、小中一貫教育の学校として、今後は、小学校の卒業を祝う会は行わないこととし、中学校のみの開催と決めました。

至らない点も多々あったと思いますが、皆さんのご協力のおかげで無事に終えることができました。どうもありがとうございました。

（中３　Ｔ・Ｈ）

※「ユニバーサルデザイン・フォント」とは？

形がわかりやすい事、文章が読みやすい事、読み間違えにくい事に配慮して、デザインされた書体。近年では、公共機関の案内版、高速道路の標識にも視認性が良い文字に変更され、教育の場でも、弱視や読み書きに困難のある子どもの学習をサポートする書体として注目されている。

―役員としての一年はいかがでしたか？

二月のＳＡの集い（最終回）は、残念ながらコロナ禍で中止となりましたが、皆さんのご協力のもと一年間無事に活動できたことに感謝しております。ＳＡの活動を通じて様々な学園行事に関わることができ、児童・生徒の成長を見守る有意義な一年間でした。

これからも児童・生徒の明るく楽しい学園生活を応援していきたいと思います。

（中３　Ｓ・Ｙ）

―今後のＳＡ活動へ、バトンメッセージを。

「自分の出来ることをしよう。できない事、わからない事は助けを求めよう。」そんな思いをサラッと受け入れてもらい、カラッとした楽しい皆さんと約一年役員をさせていただきました。担当の佐藤先生との会話も、大きな楽しみでした。（先生、支えて下さり、ありがとうございます！）

ステパノにも、嬉しい事に新たな仲間が増え、新しい風が吹いてきています。自分の頃は…昔はああだったのに…と、つい思いがちですが、学園のために何か自分を用いることができたら、という思いは皆同じです。変化を恐れず柔軟に、一人一人がＳＡ活動に参加しやすい雰囲気作りは大切だと、強く感じました。一年間ありがとうございました。

（中３・小５　Ｎ・Ｎ）

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

○実用英語技能検定

準２級合格　中３　Ｋ・Ｓ

【永年勤続者表彰】

創立記念礼拝の時に、聖ステパノ学園の教員の永年勤続表彰がありました。

勤続35年　小学校教頭　長谷川　誠子

勤続15年　小学校教務主任　上戸　基夫

【編集後記】

「コロナと共に」といわれる日常の中、例年とは違う形で、学校生活が進んでいます。でも、子ども達の成長は確かです。考えながら工夫を重ね、精一杯力を尽くす。その時を楽しみながら、より良い時間を仲間と創る。新しい行事も、一つの機会となりました。（た）

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯８６８
TEL　０４６３-６１-１２９８
FAX　０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二〇年十月九日（金）発行　第247号